宅看護学実習評価

	A:6	B：4	C:2	D:0	
1．療養生活を送る人（以降，療養者とする）とその家族等（以降対象者とする）を全人的に理解できた					
1）療養者とその家族の自己決定および権利擁護について述べることができた	療養者・家族を主体とした意思決定や権利擁護を自分の言葉で説明できた	療養者・家族を主体とした意思決定や権利擁護に気づくことができた	療養者・家族を主体とした意思決定や権利擁護に、指導を受けて気づくことができた	療養者・家族を主体とした意思決定や権利擁護に、指導を受けても理解できなかった	
2）ICF モデルを用いて，療養者とその家族の生活と健康の全体像をつかむための情報が収集できた	ICF モデルに基づき，生活機能や，環境や家族等と情報を十分に収集で，全体像をとらえることができた	ICF モデルに基づき，療養者の生活機能や，環境や家族等の情報収集に不足する部分があったが，助言により補うことができた	ICF モデルに基づき，療養者の生活機能や，環境や家族等の情報収集に不足する部分があり，かなりの助言を得て補うことができた	療養者の生活機能や，家族等の情報を ICF モデルに基づいて整理することが，かなりの助言を得ても行えなかった	
3）生活者としての視点で療養者とその家族を捉えることができた	療養者・介護者が望む生活が今後の方向性をもってイメージできた	療養者・介護者の現在の生活状況はイメージできた	療養者・介護者の訪問時の生活状況はイメージできた	療養者・介護者の生活状況がイメージできなかった	
2．対象者の生活機能とスピリチュアル Well-being を目指した看護計画を立案できた					
1）多角的な視点から療養者とその家族をアセスメントすることができた	生活機能，個人・環境要因についてアセスメントでき、全体像が統合され、ケア方針を適切に導くことができた	生活機能，個人・環境要因についてアセスメントでき，全体像が統合され、ケア方針について助言を得ながら導くことができた	生活機能，個人・環境要因についてのアセスメントできが不十分であり，対象にあったケア方針を導くには至らなかった	重要な情報が不十分であり、またアセスメントもできていなかった	
2）QOL を考慮して看護問題の優先順位を考えることができた	療養者・家族の望む生活を考慮した看護問題の優先順位を考えられていた	一般的な思考での看護問題の優先順位は考えられていた	看護問題の優先順位が的外れであった	優先順位が設定できなかった	
3）療養者やその家族の生き方や将来への展望を理解し長期目標を設定できた	療養者・家族の生き方や将来への展望を考慮した長期目標を設定できた	一般的な思考での長期目標を設定していた	長期目標が的外れであった	長期目標が設定できなかった	
4）セルフケアの予測的視点から看護計画を立案することができた	療養者・家族のセルフケア能力を活かし、先を見越した看護計画が立案できた	療養者・家族のセルフケア能力を活かしているが、現状だけをみた看護計画を立案していた	個別性がない看護計画を立案していた	的外れな看護計画を立案していた	
5）在宅での看護技術の特徴の実際を理解できた	提供されているケアについて，療養者・家族の生活スタイルに合わせ創意工夫されていることを，その根拠とともに説明できる	療養者・家族の生活スタイルに合わせ創意工夫されているケアの実際について気づくことができた	療養者・家族の生活スタイルに合わせたケアの工夫について気づくことができなかった	施設内ケアと，在宅ケアの違いに気づくことができなかった	
3．療養生活における地域包括ケアシステムの必要性と継続ケアの実際の理解できた					
1）看護の継続性について述べることができた	生活の場を主体とした看護の継続性について、自分の言葉で説明できた	生活の場を主体とした看護の継続性に、気づくことができた	生活の場を主体とした看護の継続性に、指導を受けて気づくことができた	生活の場を主体とした看護の継続性を、指導を受けても理解できなかった	

2）療養者とその家族が活用できる制度について述べることができた	療養者・家族の生活の場で活用できる制度について、自分の言葉で説明できた	療養者・家族の生活の場で活用できる制度に、気づくことができた	療養者・家族の生活の場で活用できる制度に、指導を受けて気づくことができた	療養者・家族の生活の場で活用できる制度を、指導を受けても理解できなかった	
3）多職種との連携について述べることができた	療養者・家族を主体とした多職種との連携について、自分の言葉で説明できた	療養者・家族を主体とした多職種との連携について、気づくことができた	療養者・家族を主体とした多職種との連携について、指導を受けて気づくことができた	療養者・家族を主体とした多職種との連携について、指導を受けても理解できなかった	
4）在宅で療養するための看護職の役割について述べることができる	在宅で療養を継続するための看護職の役割を、自分の言葉で説明できた	在宅で療養を継続するための看護職の役割に、気づくことができた	在宅で療養を継続するための看護職の役割に、指導を受けて気づくことができた	在宅で療養を継続するための看護職の役割を、指導を受けても理解できなかった	
4．適切な態度で看護学実習することができた					
1）身だしなみと作法	実習にふさわしい身なりが整えられ、他の学生にも気くばりできた 訪問先・事業所において、礼儀正しい立ち居振る舞いができ、他の学生にも気くばりできた	実習にふさわしい身なりが整えられた 訪問先・事業所において、礼儀正しい立ち居振る舞いができた	実習にふさわしい身なりが、1回指導助言を受けて整えられた 訪問先・事業所において、礼儀正しい立ち居振る舞いが、1回指導助言を受けてできた	実習にふさわしい身なりが、複数回指導助言を受けて整えられた 訪問先・事業所において、礼儀正しい立ち居振る舞いが、複数回指導助言を受けてできた	
2）コミュニケーション	訪問先・事業所において、相手を尊重した言葉づかい・コミュニケーションができ、他の学生にも気くばりできた	訪問先・事業所において、相手を尊重した言葉づかい・コミュニケーションができた	訪問先・事業所において、相手を尊重した言葉づかい・コミュニケーションが、1回指導助言を受けてできた	訪問先・事業所において、相手を尊重した言葉づかい・コミュニケーションが、複数回指導助言を受けてできた	
3）メンバーシップ	学内・臨地において、グループ内の役割を認識し、質問や意見交換・情報共有の行動が、積極的にとれた	学内・臨地において、グループ内の役割を認識し、質問や意見交換・情報共有の行動がとれた	学内・臨地において、グループ内の役割を認識し、質問や意見交換・情報共有の行動が、促されてとれた	学内・臨地において、グループ内の役割を認識し、質問や意見交換・情報共有の行動が、複数回促されてとれた	
4）報告・連絡・相談	実習関係者・教員に対して、報告・連絡・相談が、自ら適切にできた	実習関係者・教員に対して、報告・連絡・相談ができた	実習関係者・教員に対して、報告・連絡・相談が、1回指導助言を受けてできた	実習関係者・教員に対して、報告・連絡・相談が、複数回指導助言を受けてできた	
5）積極性	疑問や助言を受けた足りない知識について調べ、書面あるいは口頭で確認する行動がとれ、自己の課題を見出すことができた	疑問や助言を受けた足りない知識について調べ、書面あるいは口頭で確認する行動がとれた	疑問や助言を受けた足りない知識について調べたが、書面あるいは口頭で確認する行動は不十分であった	疑問や助言を受けた足りない知識について、複数回指導助言を受けて調べる行動がとれた	
6）提出物	指示された期日までに、実習要綱に沿って作成して提出でき、（相手にとって）読みやすく丁寧に記述できている	指示された期日までに、実習要綱に沿って作成して提出できた	指示された期日までに提出できたが、提出物に不備がある	指示された期日に遅れて提出した	